

12月20日(金)18:00-19:40
緊急オンライン・シンポジウム
「シリアの政権崩壊と今後を考える」

【議事次第】

司会: 山本薫(アラブ文学研究、慶応義塾大学)

報告: 岡崎弘樹(シリア文化研究、亜細亜大学)

「シリアにおける政権崩壊の文脈と意味」

コメンテーター:

松永泰行(イラン政治研究、東京外国語大学)

酒井啓子(イラク政治研究、千葉大学)

ディスカッション



【登録】 以下のURLからご参加ください。

https://keio-univ.zoom.us/webinar/register/WN_9rMAFo61RbmnG6vpG_EHw

【趣旨】

2024年12月8日になぜシリアのアサド政権が崩壊したのか。このシンポジウムでは、反体制派勢力の反転攻勢と政権崩壊の過程を確認しつつ、シリアの言論人が示してきた見方を踏まえて現状の文脈や意味を探ります。そのうえでパレスチナ／イスラエルやイラク、イランの地域研究者とともに中近東全域における波紋についてディスカッションします。

【問い合わせ先】

千葉大学 グローバル関係融合研究センター

center-glbl@chiba-u.jp

【講師紹介】



岡崎弘樹

亜細亜大学国際関係学部専任講師。研究分野はアラブ近現代思想およびシリア文化研究。著書に『アラブ近代思想家の専制批判—オリエンタリズムと<裏返しのオリエンタリズム>の間』（東京大学出版会、2021年）、訳書にヤシーン・ハージュ・サーレハ著『シリア獄中獄外』（みすず書房、2020年）、共訳書にカーシム・アミン著『アラブの女性解放論』（法政大学出版局、2024年）など。



松永泰行

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授。研究分野は政治学、国際関係論。編著に『「境界」に現れる危機』（グローバル関係学シリーズ二巻、岩波書店、2021年）、論文に「中東軍事衝突の背景および『解決』案の展望」『學士會会報』（2024年）、「第13期大統領選挙に顕れるイラン・イスラーム革命体制の諸問題」『中東研究』（2022年）など。



酒井啓子

千葉大学国際高等研究基幹特任教授。専門はイラク政治、中東を中心とした地域研究、国際関係論。著書に『イラクとアメリカ』（岩波新書、2002年）『9.11後の現代史』（講談社新書、2018年）、『グローバル関係学とは何か』（グローバル関係学シリーズ1巻、岩波書店、2020年）など。



山本薫

慶應義塾大学総合政策学部准教授。専門はアラブ文学。著書に「パレスチナ・ガザに響くラップ」島村一平編著『辺境のラッパーたち—立ち上がる「声の民族誌」』（青土社、2024年）、訳書にアダニーヤ・シブリー著『とるに足りない細部』（河出書房新社、2024年）など。

【主催】千葉大学グローバル関係融合研究センター／科研費基盤研究(A)「政治的危機下の拡大中東からの移民難民におけるネーション意識と知の生産メカニズム」（代表者：酒井啓子）／科研費若手研究「近現代アラブ思想・文学における「共存」構想とその実践」（代表者：岡崎弘樹）

【共催】中東フォーラム